

作品导读

日中对译版

南京师范大学 日语系

莫言



莫言诺贝尔奖获奖纪念——



莫言作品导读

南京师范大学日本语科

2013年

莫言

莫言（1955年2月17日ー）は本名管謨業。山東省高密県の農村生まれ。60年代の文化大革命により小学校中退、農村で働く。1976年人民解放軍入隊。図書管理員、教員などの職を歴任しながら執筆を始める。

1984年秋、解放軍芸術学院入学。作家で恩師の徐懐中の指導を受け、郷土への愛と恨みに満ちた複雑な感情をおり混ぜた作品から始まり、ルーツ作家とも言われる。文学上のバックグラウンド「高密東北郷」を打ち立てる過程で、アメリカのウィリアム・フォークナー（1949年ノーベル賞受賞）やコロンビアのガルシア・マルケス（1982年ノーベル賞受賞『百年の孤独』）からも重要な啓発を受け、すべきことは自分の方式を確立すること、つまり、その方式とは自分が一番よく知っている村の市で講談師が語る方式を独創した。それは魔術的リアリズムの影響を帯び、天馬が空を翔るがごとくの、馴染みのない処理をほどこし、実像をこえた神秘的な対象世界を形作り、明らかな「先進さ」を帯びた主観感覚世界を莫言は作品の中に構築した。

ペンネームの莫言は本名の謨業の1字を分解したものであることと、もう一つは話すことが好きで、話し出したら止まらないという自分の天性を戒めるため、言う莫れと自分への風刺でもありユーモアでもある。

『透明なニンジン』（1985）で注目され、『赤いコーリャン』（1986）が張芸謀監督で映画化され、ベルリン映画祭で金熊賞（1988）を受賞したことから、一躍世界に知られることとなった。彼の作品『豊乳肥臀』大家文学賞（1997）、『白檀の刑』鼎鈞双年文学賞（2003）、『酒国』（2006）は福岡アジア文化賞、『転生夢現』紅樓夢賞（2008）、『蛙鳴』茅盾文学賞（2011）など多数の賞を獲得し、「幻覚的なリアリズムによって民話、歴史、現代を融合させた」としてノーベル文学賞を2012年10月11日受賞した。

莫言

莫言（1955年2月17日—），原名管谟业，生于山东省高密县农村。童年时在家乡小学读书，后因文革辍学，在农村劳动多年。1976年加入解放军，历任班长、保密员、图书管理员、教员等职期间开始创作。1984年秋考入解放军艺术学院文学系。在恩师著名作家徐怀中的启发指导下，以乡土作品崛起，其作品充满着“怀乡”以及“怨乡”的复杂情感，被归类为“寻根文学”作家。在创建文学领地“高密东北乡”的过程中，受到美国的威廉·福克纳（1897-1962，代表作《喧哗与躁动》，获1949年诺贝尔文学奖）和哥伦比亚的加西亚·马尔克斯（1927-，代表作《百年孤独》，获1982年诺贝尔文学奖）的重要启发，决定确立自己的创作方式，并最终独创了其所熟知的集市说书人充当叙事主体的创作方式。其作品深受魔幻现实主义影响。天马行空般的叙述，陌生化的处理，神秘超验的对象世界，构造独特的感官世界，使得其作品带有明显的“先锋”色彩。

笔名“莫言”来源于他原名中的“谟”字。此外，也包含了“莫言”对自己喜欢说话这一天性的讽刺。

莫言凭借《透明的红萝卜》（1985）蜚声文坛，因张艺谋执导电影《红高粱》（1988）在柏林电影节摘得金熊奖而享誉海内外。他的作品《丰乳肥臀》（1997）获大家文学奖，《檀香刑》（2003）获第一届鼎钧双年文学奖，《酒国》（2006）荣获福冈亚洲文化大奖，《生死疲劳》（2008）获第二届红楼梦奖首奖，《蛙》（2011）获第八届茅盾文学奖。因其“用魔幻现实主义将民间故事、历史和现代融为一体”而被授予2012年诺贝尔文学奖。

前書き

莫言（モーイエン、ばくげん）は現在日本において最も有名な中国人作家である。昨年10月の莫言のノーベル文学賞受賞のニュースは、日本でも大きく報道された。たとえば朝日新聞2012年10月16日号には東京大学文学部中国文学研究室教授の藤井省三先生が「農村からの魔術的リアリズム」というエッセーで、「彼の名を漢文風に読めば“言う莫（な）かれ”だが、なんと巨大な語り部であることよ！」と書き出している。藤井先生の祝辞は毎日新聞、日本経済新聞、共同通信社加盟の各地方紙などにも掲載された。そのほか同じ日の読売新聞には法政大学教授の川村湊先生が「ノーベル文学賞 莫言 阿Qの描く阿Qたち」を寄稿している。川村先生は近代日本文学の研究者として、また文芸批評家としても著名な方で、中日青年作家会議などの文化交流に尽力してきた方でもある。

なぜ中国作家のノーベル文学賞受賞が日本でこのように話題になるのだろうか。それは20世紀80年代に莫言が中国文壇にデビューした直後から、『赤い高粱』、『酒国』、『白檀の刑』（《檀香刑》）などの莫言文学が、日本で広く翻訳紹介されてきたからなのだ。具体的に言えば、日本の読者はまさに中国文学研究者の藤井省三の翻訳を通じて莫言の文学作品を知ることになったのである。

藤井省三の翻訳により、莫言が日本のラテンアメリカ・欧米文学研究・翻訳の第一人者たちから大変高い評価を得たことは、日本において世界文学として認知されたと言える。このように、日本の現代中国文学研究者による翻訳紹介活動を通じて、日本文化界は莫言を世界的な文学者として注目するようになったのだ。そして日本文化界を代表する大江先生が莫言の日本語に翻訳された作品を読み、ご自身の1994年ノーベル文学賞受賞記念講演で、すでに莫言を高く評価しておられる。おそらく大江先生はその後も、同賞選考委員会に対し、熱心に莫言をご推薦なさっていたことだろう。そして選考委員会側も同賞受賞作家である大江先生の推薦には、真剣に耳を傾けたことだろう。大江先生の推薦が、莫言にノーベル文学賞をもたらす一つの要素になったのである。（藤井省三、林敏潔共著「日本における莫言文学」）

以上のことから、私たち中国の日本語学習者・研究者は次の二点を学べる。第一に、私たちが外国の文化と社会を学び、異国に紹介することは、中日友好交流への貢献という意味だけでなく、グローバルな意義を持ち得ることである。

第二に、莫言文学がすでに日本文化界で広く深く受容されているからには、中日交流の先魁である私たち日本語学科の人たちも、莫言文学に対し最小限の理解を持つべきであること。日本の友人から、莫言のことについて聞かれた時に、「私は莫言という方を存知あげません。」と答えたなら、おそらくシラけてしまう。

日本語学科の学生は、日本語の勉強だけではなく、経済、文化、社会など各方面も勉強しなければならないと思う。忙しいではあろうが、それでも、自国の文化をおろそかにしないで、時間をやり繰りして、中国文学も読んでほしい。莫言の場合、短篇小説や講演原稿から読み始めるのも良い。こうしておけば、日本の友人との間で莫言文学が話題になった時にも、良好なコミュニケーションが成立するはずである。

莫言文学は中国の文化的財産であるだけでなく、日本の、そして世界の文化的財産でもある。それは魯迅や村上春樹が世界文学であることと同様だ。一教員として私は日本語学科の院生学生に、日本の社会と文化を学びつつ、莫言文学をはじめ中国の文化についても学んで頂きたいと願っている次第である。今回の協同翻訳の原稿を拝読したところ、改善の余地はまだ残ってはいるものの素敵な翻訳作品に仕上がっていたので、私は心から嬉しく思った次第である。小沢先生、劉道さん、徐榛さんをはじめとする皆様にお疲れさまと申しあげたい気持ちだ。

日本語学科の学生が、この一冊の作品集を全部読むことには、大きな意味があるものと考えている。これにより皆さんは、文学の言語・知識を増やしただけではなく、真の国際人にさらに一歩近づいたのである。皆さんの今後の更なる国際人としてのご活躍を祈って、結びの言葉といたしましょう。

林敏潔 拝
2013年6月8日

前言

莫言是当今日本最有名的中国作家。去年10月莫言获得诺贝尔文学奖的新闻亦在日本被大规模地报道了。如2012年10月16日的《朝日新闻》刊登了东京大学文学部中国文学研究室藤井省三教授的随笔《来自农村的魔幻现实主义》，文中写道：“虽然他的名字汉语的意思是‘莫说话’，但他是何等伟大的叙述家啊！”与此同时，《每日新闻》、《日本经济新闻》、共同通信社等也相继登载了藤井老师的祝辞。此外，当天的《读卖新闻》刊载了法政大学川村湊教授的随笔《诺贝尔文学奖 莫言 阿Q描写的阿Q们》。川村教授是著名的近代日本文学研究家、文艺评论家，致力于中日青年作家会议等文化交流。

为什么一个中国作家获得诺贝尔奖在日本会成为如此热门的话题呢？这是因为在上世纪80年代，莫言登上中国文坛不久，《红高粱》、《酒国》、《檀香刑》等作品就在日本被广泛翻译介绍的缘故。确切的说，日本读者也正是通过藤井省三等中国文学研究者的翻译开始认识理解莫言文学作品的。

通过藤井教授等学者的翻译，莫言得到了日本的拉丁美洲、欧美文学翻译研究者的高度评价。由此开始，莫言文学在日本被认知为世界文学，莫言本人也因为日本现代中国文学研究者的翻译和介绍而在日本文化界被作为世界级的文学家广受瞩目。日本文化界的代表大江健三郎（1935年～）先生在阅读了莫言先生的作品日译本后，早在1994年诺贝尔获奖纪念演讲中就对莫言给予了最高的评价，此后，他又向诺贝尔奖评选委员会热心地推荐了莫言，而评选委员会也认真地倾听了获奖作家大江先生的推荐吧。从这个角度来说，日本文化界的代表大江先生的推荐，也是莫言获得诺贝尔文学奖的一个重要因素。（藤井省三 林敏洁共著《莫言文学在日本的译介与传播》）

因此，我们外语学习者、研究者可以从中学到以下两点。第一、我们学习语言与文化并向异国介绍，不仅能对中日友好交流做出贡献，而且具有国际意义。第二、因为莫言文学在日本文化界已经被广泛、深入地接受了，所以作为交流的使者，我们日语系的师生应该对莫言文学有一定的常识。当被日本友人问到莫言时，如只能回答“我不知道莫言”的话，局面就会变得很尴尬吧。

作为日语系的学生，不仅要学习日语，也要学习经济、文化、社会等各方面的知识，虽然可能比较繁忙，但希望大家也不要忽略了本国的文化，请你安排时间，多阅读中国文学吧。阅读莫言作品，从短篇小说、演说文稿入手亦好。这样的话，当和日本友人谈及莫言时，就能进行很好的交流沟通了。

如同鲁迅与村上春树是世界文学的财富一样，莫言文学不仅是中国的文化财产，也是日本乃至世界的文化财产。作为一名教师，我希望日语系的学生在学习日本社会文化的同时，亦能以莫言文学为契机更好地学习中国文化。

读完此次的合作翻译通稿，虽然觉得还有改善的余地，但已不失为一本漂亮的文集，对此我由衷地感到喜悦。小泽老师、刘道、徐榛以及为这本文集付出辛勤劳动的各位同学，你们辛苦了！

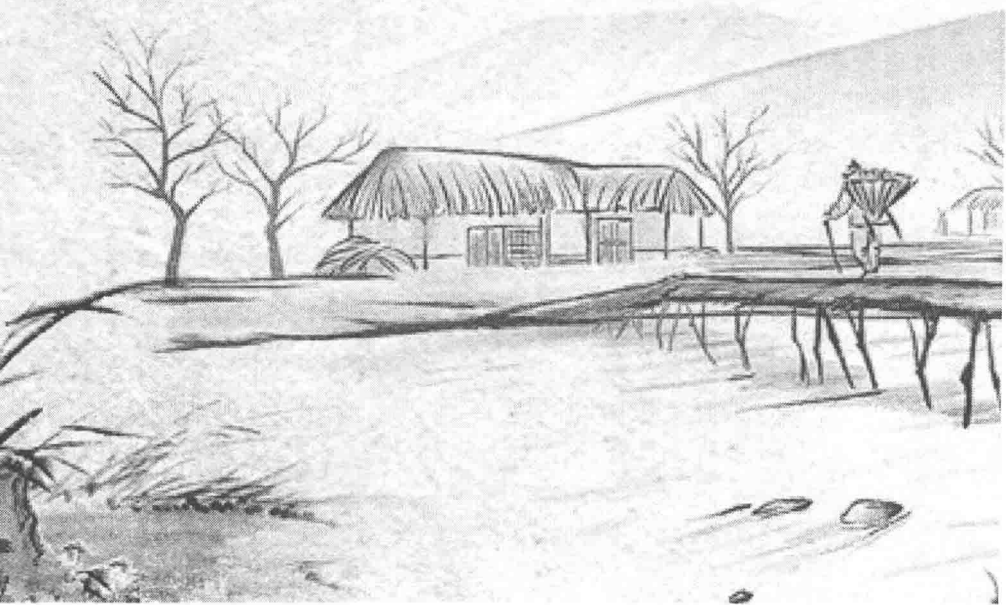
我认为学生们阅读这一本书，有重要的意义。通过通读这本精选的莫言作品双语集，大家不仅能对文学作品及语言有所了解，也向着成为有教养的国际人迈进了一步。

最后让我衷心祝愿大家能早日成长为活跃在国际舞台上的人才！

林敏洁 敬

2013年3月26日

20 世紀 80 年代



目録

000 前書き

林敏潔

PART I 20世紀80年代

- | | | |
|-----|-------------------------|-----|
| 001 | 『民間音楽』《民间音乐》 | 彭晨 |
| 007 | 『透明なニンジン』《透明的红萝卜》 | 周宇 |
| 011 | 『白い犬とブランコ』《白狗秋千架》 | 陈丹 |
| 016 | 『金髪の嬰兒』《金发婴儿》 | 濮一星 |
| 021 | 『爆発』《爆炸》 | 徐晓丽 |
| 025 | 『大風』《大风》 | 周纯静 |
| 029 | 『枯れた川』《枯河》 | 高苏 |
| 037 | 『道路建設』《筑路》 | 钱轶雯 |
| 041 | 『赤いコーリャン家族』《红高粱家族》 | 刘道 |
| 045 | 『飛蝗』《红蝗》 | 李萌 |
| 049 | 『歓楽』《欢乐》 | 李婧 |
| 053 | 『天堂ニンニクの芽騒動』《天堂蒜薹之歌》 | 裴凡慧 |
| 060 | 『恐れさせる行為』
《你的行为使我恐惧》 | 朱婷婷 |
| 064 | 『酒国』《酒国》 | 彭敏 |
| 070 | 『人と獣』《人与兽》 | 郭瑞琪 |
| 074 | 『食糧』《粮食》 | 洪晨怡 |
| 078 | 『民家に迷い込んだ狼』《一匹误入民宅的狼》 | 钱丹 |
-

PART II 20世紀90年代

- | | | |
|-----|------------------|-----|
| 083 | 『戦友の再会』战友重逢 | 刘晴云 |
| 087 | 『花束を抱いた女』怀抱鲜花的女人 | 王挺 |

091	『夜漁』《夜漁》	宗越
094	『ユーモアと面白さ』《幽默与趣味》	徐榛
099	『夢境と雑種』《梦境与杂种》	邹泽源
102	『豊乳肥臀』《丰乳肥臀》	靳晓宁
108	『牛』《牛》	韩婷
113	『三十年前の長距離競走』《三十年前的一次长跑比赛》	杨艳芸
117	『親指の手錠』《拇指铐》	李正楠
125	『イナゴ奇談』《蝗虫奇谈》	秦瑾
130	『歌える壁』《会歌唱的墙》	盛佳铭
136	『長安街のロバに乗った美人』《长安街上的骑驴美人》	伍倩倩
139	『至福のとき』《师傅越来越幽默》	缪彩云
145	『息子の敵』《儿子的敌人》	薛莉
149	『マングローブの森』《红树林》	孙岳
154	『司令の女』《司令的女人》	惠熠倩
158	『氷雪の美人』《冰雪美人》	陆爱波

PART III 21 世紀

161	『逆立ち』《倒立》	胡捷
165	『ならず者の活躍』《野种》	李永真
168	『大工と犬』《木匠和狗》	蔡媛
175	『四十一炮』《四十一炮》	张涛
180	『月光斬』《月光斩》	顾一
184	『転生夢現』《生死疲劳》	司马智星
189	『白檀の刑』《檀香刑》	周健怡
193	『蛙鳴』《蛙》	吕筱



『民間音楽』

《民间音乐》

彭晨

- あらすじ
- 感想
- 補足

あらすじ

『民間音楽』は靈妙な作品として知られている莫言の短編小説である。莫言は自分なりのユニークな方式で想像と現実の間にある「民間」を構築して、個性的な言葉で様々な人物が良く描かれている。このとっぴなストーリーの背後は奥深い哲理と厚い感情に富んでいる。素晴らしいアイデアと、音楽のような言葉で、行間には独特な美しさがところどころ見られる。

『民間音楽』は馬桑鎮で起こった物語を述べている。4月のある暖かい日暮れ、一人の盲人が町に流れてきた。居酒屋の個性的な女主人である花茉莉は彼を引き留めて世話をしたが、町の人に咎められた。

简介

《民间音乐》是莫言短篇小说的经典之作，被誉为具有“奇气”的作品。莫言以其独特的方式构建起一个介于想象与现实之间的“民间”——马桑镇，又用具有个性的语言塑造了带有神奇色彩的人物，叙述了一段颇为离奇的故事，在故事的背后又蕴含着深刻的思想和深厚的情感。小说构思奇妙，叙事精当，语言犹如音乐一般，字里行间显现出独特的奇与美。

《民间音乐》讲述了一段发生在马桑镇的故事：古历四月一个温暖和煦的黄昏，一个小瞎子流落到马桑镇，个性张扬的小酒店女老板花茉莉收留了他，却引来镇上人的非议。

そして、盲人は清浄な音楽で人々を感化して、流言飛語も消え失せた。心を洗われた住民は音楽に引き寄せられて、花茉莉の居酒屋に殺到してきた。花茉莉も音楽に感動させられ、盲人のことが好きになって、彼と結婚したがるほどだ。しかし盲人は自分の音楽がビジネスの銅臭に汚染されたことを気にして、きっぱりと離れることにした。盲人を探すために、花茉莉も引き続き消えてなくなった。

盲人は去ったけれども、彼の音楽はなくならず、永く馬桑鎮に残っていた。音楽のテーマは全体のストーリーを貫いて、深い思想がストーリーの中で自然に明らかになってくる。

小説は音楽と人の関係をはっきり示し、音楽は心を浄化して比類がない力を広く宣伝した。盲人は花茉莉の家に住んだ後、一時馬桑鎮の人は花茉莉と盲人の間の是非を密かに探った。馬桑鎮の人は利己的で、たまらなく俗っぽいのだ。しかし、八隆河の大堤の上で盲人が簫を吹いているのを聞いて、その後いわれのないうわさはさっと消えて、彼らは“甘い憂いに浸りながら、こっそりと大堤を降りて、街の四方八方へ消えてなくなった”。

小瞎子用自己的纯净的音乐感染了镇上的人，流言蜚语随即烟消云散，人们的心灵得到了净化。人们被他的音乐所吸引，络绎不绝地来花茉莉的小酒店消费。花茉莉也被音乐打动，由此产生了对小瞎子的爱慕，并且想要跟他结婚。但是小瞎子发现自己的音乐被商业的铜臭气味给污染了，坚决地离开。花茉莉为了寻找盲乐师，也跟着消失了。

小瞎子虽然离开了，但他的音乐没有消失，永远留在马桑镇。音乐的主题贯穿整个故事，深刻的思想在一段奇特的故事中自然而然揭示出来。

小说揭示了音乐与人的关系，宣扬了音乐净化心灵无与伦比的力量。当小瞎子入住花茉莉家之后，一时马桑镇的人都在窥探着花茉莉与小瞎子他们之间的是是非非。马桑镇的人是自私的，是俗不可耐的。然而，马桑镇的人在八隆河大堤上听了小瞎子吹箫之后，莫名的留言断然消逝，他们怀着“一种甜蜜的惆怅，悄悄地走下堤去，消失在小镇的四面八方”。

盲人の簫の音はここで巨大な効果を發揮して、彼の音楽はすでに深く人の心に染込み始め、そして馬桑鎮のどの人も感化した。

音楽の人間性の真善美に対する呼びかけは字の行間ではっきりと現れる。簫を聞いた後、馬桑鎮の人は音楽に揺り動かされて、次から次へと花茉莉の居酒屋に入った。盲人の二胡が弾き鳴らされた時、方六の茶屋、黄眼の飲食店、杜双の売店の中の顧客は鉄くずが磁石に吸い付くように居酒屋に走って入った。狭い麻石街は、人通りがないかのようにしんとしていた。すべての人は音楽に引きつけられて感動し、自分を忘れ、低俗を忘れた。「人々の奇形で邪悪な感情はすでに知らず知らず浄化されてきたのだ。」

音楽の力は大きい。小説の最後、音楽はもう尽きることがない力に変化してきた。「この民間の音楽は絶えず膨張して、最後、音はまるで舗装工の口から出るのではなくて、果てしなく広い大地から出ているようだ。」長い間抑えられていた人間性の真と善はついに呼びかけられて表れたのだ。

小瞎子の簫声在这里发挥了巨大的作用，他的音乐已开始深入人心，并感染这马桑镇的每一个人。

音乐对人性真善美的呼唤随着娓娓道来的故事在字行间显现。经过了听箫之后，马桑镇的人被音乐所震撼，他们便纷纷涌进茉莉花茶馆。当小瞎子的二胡拉响时，方六茶馆，黄眼饭铺、杜双的小卖部里的顾客就像铁屑寻找磁石一样跑进了酒店。窄窄的麻石街上，阒无人迹。所有的人都被音乐吸引着、感动着，他们忘了自私，忘了庸俗。“人们畸形的邪恶感情已经不知不觉地被净化了。”

音乐的力量是庞大的，音乐在小说结尾已经幻化为一种无穷的力量。“这民间音乐不断膨胀着，到后来，声音仿佛不是出自铺路工之口，而是来自无比深厚凝重的莽莽大地。”人性的真与善压抑太久后终于被呼唤出来。

感想

花茉莉と盲人の奏でる二胡と簫の音の中で揺れ動く怪しく優美な愛情が雲のように私の心で揺れ動いている。小説の結末はサスペンスを残して、あまり完璧ではないようだ。固有観念により、もし花茉莉と盲人が一緒になれるなら、ハッピーエンドと言える。しかし、よく考えると、盲人の離別で小説のテーマはより昇華されたことはあきらかだ。

花茉莉の盲人に対する好意は情欲のシンボルで、このような情欲は彼女を利己的にし、彼女の独占欲が急激に膨張した。彼女は盲人が4店で順番に続けて演奏するという方六、黄眼、杜双の提案を拒絶した後、盲人に嫁いで、それによって盲人をただ彼女一人だけのものにしたかった。しかし、盲人は音楽の真の意味を求めるのに固執して、彼の心の中で音楽は清純で最高であり、音楽は欲望と邪悪が天敵であり、告白された後どうしても馬桑鎮を離れなければならなくなった。

感想

小説里花茉莉和小瞎子那在二胡和箫声中颤动的诡异而优美的爱情仍然如同一朵云浮动在我的脑海里。小说结尾留下悬念，似乎不太完美。在固有观念里，总觉得若是花茉莉和小瞎子在一起，便是圆满的结局了吧。但是细细想来，正是小瞎子的离开，才使得主题更加升华。

花茉莉对小瞎子的喜爱是情欲的象征，而她这种情欲使她变得自私，她的独占欲急剧膨胀。她拒绝了方六、黄眼、杜双让小瞎子“在四件轮流坐庄”的建议后，想嫁给小瞎子，从而让小瞎子只属于她一个人。而小瞎子执著地追求着音乐的真谛，在他心中，音乐是纯美的是至高无上的，音乐是欲望与邪恶的天敌，因此当花茉莉向小瞎子说明了爱慕之思后，小瞎子不得不离开了马桑镇。只有逃离“音乐”才有出路。

小説には人間性の真善美を呼びかけるテーマ以外、もう1つ深いテーマを含んでいる。音楽は民間のもので、人間性の美は世間のものだ。民間に受け入れられる音楽こそ、本当の音楽と言える。人間性の美も一人のものではなく、大衆全体に源を発するものだ。

小说关于音乐的主题除了揭示呼唤人性真善美的主题外，还包含着另外一个深刻的含义：音乐是民间的，人性美是属于人间的。只有被民间接受的音乐，才算得上真正的音乐；而人性美也不是一个人的，而是发源于全体大众的。

補足

「この小説、書き始めた時文芸の商品化の傾向にあったが、書いているうちに新しい思想が入った。盲人と花茉莉は人格の独立化を求めて、内心世界の自由と解放を求める。とりあえず、この人物を俗に染まらない様子で描きたいと思っているのだ。花茉莉は完全に脱俗できなく、彼女自身は脱俗過程にいる人物で、もちろん、このような人は生活の中で実際には存在しなく、ただ一種の観念の化身で、私の人生観を託している人物だ。

補充

莫言自己这样谈他的《民间音乐》：“我这篇东西，刚开始写时是有文艺商品化倾向的，写着写着就掺进了新的思想。小瞎子和花茉莉都在追求人格的独立化，追求内心世界的自由和解放。总之，我是想把这个人物塑造造成脱尽俗气的人物。花茉莉未能完全脱俗，她本身是个处于脱俗过程中的人物，当然，这种人在生活中实际上是不存在的，是一种观念的化身，是寄托着我的人生观的人物。

これらの人物はひとりも立ち上がれないで、私はわざと小説の現代的センスを薄め、神秘感とりわけでたらめな雰囲気を加えたのは、読者に伝統的審美観念で私の人物を評価してほしくないからだ……私はその時やっとならてアメリカの爆発文学に感心させられ、マルケスの魔術的リアリズムの創作方法に対して高く認めることになり、必ず不安定な言語を使い、反伝統の形式で自分の風格を形成したいと思った。」と莫言は『民間音楽』についてこのように語った。

这些人物一个也站不起来，我故意使小说时代感淡薄，增添神秘朦胧甚至是荒诞的气氛，目的就是让读者不要用传统的审美观念来看待我的人物……我那时才真正折服拉美爆炸文学，对马尔克斯的魔幻现实主义的制作方法有了高度认同，认为必须用动荡不安的语言，反传统的形式来形成自己的风格。”